

暴かれた「23時計台前集會」の正体

何たる「國策」

■赤ヘルの党派的延命のために
吉田質問題を利用！
■自らの裏切り隠蔽のために
「差別・抑圧」と闘つ団体を利用

吉田憲生諸君へ、屈服の道を指
舌く三田家・勤労十集くつぎに
闘おう！

全この歴史を踏む

ついに「23時計台前集會」の正体は全面的に明らかになった。昨日、吉田憲執行部の諸君に対する我々の追及により、吉田憲執行部の延命の道具として「赤ヘル」の「23時計台前集會」にかけた思惑が白日のもとに暴露された。

我々の止むにやまれぬ追及は、「23時計台前集會」を訴える吉田憲自治会が「23時計台前集會」の正体は「差別・共闘」としてはじめて明らか。その意図は明らかに「差別・抑圧」と闘う諸団体の連帯・共闘」を呼びかけるという大それたことを行なうに決まっていた。

一本、自分を含めて政治闘争に力を入れていくという「闘」を志す。決して後進的な「中核」が何故「23時計台前集會」を「差別・共闘」としてはじめて明らか。その意図は明らかに「差別・抑圧」と闘う諸団体の連帯・共闘」を呼びかけるという大それたことを行なうに決まっていた。

我々の追及に対して、吉田憲執行部は、自らの自治会の組織的方針を隠蔽し続け、「吉田憲自治会として決めたことだ」と断言し、責任をシメてきた。我々の追及と組織的方針を隠蔽し続け、「吉田憲執行部の言い遣いは完全な偽りだ」

「23時計台前集會」の正体は「差別・抑圧」と闘う諸団体の連帯・共闘」を呼びかけるという大それたことを行なうに決まっていた。

「23時計台前集會」への全国攻撃、「大学再編」と闘う団体、「差別・抑圧」と闘う団体への招集状においては「国内再編・大学再編に抗する全国的連帯共闘」なる位置づけは何ひとつ見られなかった。何と執行部は、責任をシメてきた。我々の追及と組織的方針を隠蔽し続け、「吉田憲執行部の言い遣いは完全な偽りだ」

中核派

具に供してしまつたのだ。何と云つて腐敗した連中か、

でもでもその自治会を盛り起した連中がやむを得ず「全国農業
会」とは何か？、1・26カワマルに於ける選挙権を行使すること
ただのとり返しの権利、選挙権カワマルを確保して、日共の「
カワマル」をキャンセル、「政府」を高くの選挙権に抗議
の声をあげぬ「自治会」とは何か。そのような自治の内幕
が全国の人々といかなる「共闘」をけんうとしようのか、自
治会として差別・排斥とされたからにせよ、この「カワマル」
で投票して来たものが、「選挙権を確保すること」にせよ、
被差別・被排斥人民の闘いの「共闘・連帯」を語るには、
何たる利用主義か、

赤入ル・執行部の手によつて、既に吉田農自治会は、転向
と腐敗の道へと引かれ回されたのだ。「1」は、2・28の時野
台前集会の「連帯・共闘」なる位置づけを撤回したり、カワ
マルに対する一片の抗議を明をマリバイ内に出すことによつて
問題ではない。

「全国的連帯共闘」云々の主張を我々は断じて許さない
いませ、すべこの闘う吉田農団にこそこの闘いを創すべし、敵は解
用になった。自らのセメントの運命のために、吉田農自治会を
転向の道に導きずり込ましめるべきだ。断固と断せよ、来た
悪らつた政治的仕廻りを続けながら、日共の選挙的悪業に向
ひてつ着点とせよ、農団をシイタニに押し回す卑劣策を許
すな、吉田農団をたたき、全国の闘う人民をたぶらつかし、
農団運動を組織しようとする赤入ル、一部政治山口に断固と
る態度を、

いませ、すべこの心ある農家の連が、今僅かな明りだ。代
大(学生)ーストでもって、選挙権の大争闘事としての爆発
をわざとる勝利の道を指さし、敵対し、大衆運動の爆発を「
金銭的交換」に流してしまつた連中の狡猾な、C「田」を指すに
まつてこの上なく明らかとなった。残念ながら、我々も「
とほでなかつたが、1・31に代大に結集した全二〇〇の
かに、敵は覆え上がったのである。当日、暴動隊は入行台を
よつてはけに暴動隊は押す態を、

新たな東京大闘争の爆発は開始された。2・25選挙権紛争
に燃え起す、

由喜海の野田農団をたたき、我々を導いて来たカワマル、百二十
名の選挙権をとりあげ、選挙権に投入せよとせよ、
農団をたたき、選挙権をとりあげ、選挙権に投入せよとせよ、
農団をたたき、選挙権をとりあげ、選挙権に投入せよとせよ、